



1. <イントロダクション>

さあ、ここにお集まりのみなさん。これからご披露いたしますのは、だれもがよく知る物語の数々です。でも少しだけ、おかしなところがあるかもしれません。「え、こんなシーンあったけ?」「こんな登場人物いたかしら?」たとえ首をかしげるようなところがあっても、どうぞそこはご容赦ください(お許しください)。この紙芝居を作った人が、ついつい調子にのってしまっただけですから。

それでは今から始めますのは、ちょっとおかしな朗読会。声を出しても構いません。指を差しても構いません。うとうと居眠りしても構いませんよ。どうぞごゆるりとお覧ください。

さて。まず初めの物語は・・・。



2. <桃太郎> (*タイトルは読まず)

・・・そう、桃太郎です。おじいさんは山へ芝刈りに、おばあさんは川へ洗濯に。そしてどんぶらこ、どんぶらこ。川を流れてきたのは・・・。そう、大きな桃です。その桃から生まれたのはもちろん、かの有名な・・・桃太郎。やがて大きく立派に成長した桃太郎は、サル、キジ、犬に吉備団子を渡してお供にすると、みんなで鬼ヶ島へ鬼退治に行くのです!こんな風にのんびり釣りや凧揚げをしていたかどうかはわかりませんが、舟に乗った一行は鬼ヶ島目指して進んでゆきます。

やがて鬼たちの待ち受ける島へ辿り着くと、みんなで力を合わせてその鬼たちをやっつけます。そして宝の山を持って、おじいさん、おばあさんのもとへ戻るのです。なんだかこれだけ聞くと、鬼たちのほうがかわいそうな気がしますね。

正確にお伝えすると、鬼たちが持っていた宝はあちこちの国から奪ったもので、桃太郎は後(のち)にその宝を、持ち主たちの元へ届けて回ったそうです。



3. <赤ずきん>

「ルルルン、ルルルン」遠くの方から歌いながら歩いて来る女の子がいます。・・・そう、「赤ずきんちゃん」です。おばあさんのお見舞いに、一人で森の中までやって来ました。途中、オオカミにそそのかされた赤ずきんは、お母さんの言いつけを守らず、お花を摘むのに夢中になり、すっかり遅くなってしまいました。

おばあさんのうちに先回りしたオオカミは、おばあさんをぱくっと食べてしまうと、おばあさんの服を着て赤ずきんが来るのを待ち伏せします。「おばあさんのお口はどうしてそんなに大きいの?」「それはお前を食べるためさ〜パクリ」なんと赤ずきんも食べられてしまいました。満腹になったオオカミがいびきをかいて寝ていると、猟師がやってきてオオカミのお腹を切りさき、おばあさんと赤ずきんを助け出します。これが有名な赤ずきんちゃんのお話。ちょっと怖いですね。

でもこの影絵のオオカミは違うんです。病気のおばあさんのもとでお手伝いさんをやっているだけなのです。おばあさんからもらった洋服が気に入って、時々鏡を見てはうっとりしています。この後(あと)、おばあさんと赤ずきんとオオカミは、オオカミの焼いたおいしいパンケーキで、仲良くお茶をする予定です。



4. <ブレイメンの音楽隊>

さて、このお話はなんでしょう？・・・そう「ブレイメンの音楽隊」です。年老いたロバと、犬、そして猫と、ニワトリが、飼い主の元から逃げ出し、音楽隊に入ろうとブレイメンに向けて旅を始めます。そこで見かけた泥棒たちのあじと。動物たちは次々と背中に乗っていき、ひとつの大きな怪物のような影を作って、扉の中の泥棒たちを脅かします。ヒヒ〜ン、ワン、ニャン、コケッコ〜。

え？この絵の中に、お話にはない動物が混じってるって？そりゃあ、少しでも数の多いほうが心強いものですもの。という訳で、ブタ、サル、カメ、ネズミもついでに加えてみました。みんなで一齐に騒ぎたてると、泥棒たちは驚き、慌てて逃げ出します。残された動物たちは、すっかりこのあじとが気に入り、音楽を奏でながら、ここで仲良く暮らすことにしました。

そう、この年老いた動物たちの一行、実はブレイメンにたどり着くこともなければ、音楽隊に入ることもなかったのです。



5. <西遊記>

さてさて、次は中国のお話。三蔵法師の一行が天竺（てんじく）を目指して旅をしております。途中様々な妖怪たちが立ちはだかるも、猿の孫悟空（そん ごくう）、豚の猪八戒（ちょ はっかい）、かっぱの沙悟浄（さ ごじょう）が、お師匠様である三蔵法師をお守りしながら前へ前へと進んでゆきます。そう、このお話は「西遊記」です。

おや、大きな龍が、一行を見つけて襲いかかろうとしています。そこで悟空は空飛ぶ雲、筋斗雲（きんとん）に乗り、自分の方へ龍をおびき寄せます。ヒューヒュー。口笛を吹くと、龍は向きを変え、悟空を追いかけ始めます。おや、でもその表情は、恐ろしいというより、餌を欲しがってシッポをふる犬のようにも見えます。あ、悟空がお饅頭のようなものを手にしていますね。戦うより仲良くするが勝ち、ということもあるのかもしれない。

やがて龍は悟空が投げたお饅頭を追って、はるか遠くに消えていきました、とさ。



6. <ピノキオ>

あれあれあれ、鼻が長〜くなっているのは？そうピノキオです。イタリアの原作では「ピノッキオ」と発音します。ピノキオは度々言いつけを守らず、嘘をついたので、青い髪の仙女が罰として鼻を伸ばしてしまったのです。「あ〜仙女さま〜、2度と嘘はつきません〜」泣きながら反省するのが、ピノキオの物語。でもこの影絵は・・・

なんだかピノキオもコオロギも楽しそうですね。ちょっと伸び過ぎた枝のような鼻には、いい香りのする花が咲き、リスや小鳥まで飛び交っています。ピノキオは、この光景を見て思うのです。「反省する時間も悪くないな」って。すると鼻はしゅるしゅると、もとの長さに戻ってゆきます。

ピノキオは時々寂しくなると、わざと嘘をついて、このにぎやかな鼻を密かに楽しんでいるのです。そんなことをしては、いつまでも人間の子どもになれませんよ。



7. <不思議の国のアリス>

さあ、これは？そう、「不思議の国のアリス」です。「大変だ、遅れちゃった！」と言いながら走っていく白ウサギを追いかけ、アリスは深い穴へと落ちて行きます。そこはなんとも奇妙な国。出会う人や生きものは、みーんな変わっています。言うこともへんてこです。まるでへんてこでない人のほうがへんてこのような、いろんなものがこんがらかった世界です。

楽しくお茶会をしているのは、これまたへんてこな帽子屋と三日月うさぎ、そしてその間に寝ているのは、眠りネズミです。アリスがやって来ると「席なんか無いよ！」とみんなで騒ぎたてます。そのくせ勝手に座ったアリスに「もっとお茶をいただきなよ」と熱心に勧めてくるのです。「まだちっともいただいてないから、もっとと言われても無理よ」アリスも負けずと言い返します。

やがて、めちゃくちゃな会話にうんざりしてきたアリスは、席を立つのですが、誰も引きとめようとはしてくれません。このへんてこなお茶会、誰が来ようと帰ろうと、ずーっとこの調子で続くのでした。



8. <アラジンと魔法のランプ>

空飛ぶじゅうたんの上で気持よさそうに寝ている青年がいます。・・・アラジンです。そして、ランプから浮き出た巨大な影は・・・？魔人と呼ばれるランプの精です。そう「アラジンと魔法のランプ」。魔人はランプの持ち主の願いを叶える力を持っています。持ち主がランプをさすると「お呼びでしょうか、ご主人様～」と言って、魔人はランプの中から姿を現すのです。

この絵の魔人は歌を歌っているようですが、これもアラジンの命令でしょうか。でも勝手に出てきて歌っているようにも見えますね。魔人は歌がとても上手で、アラジンはつい寝込んでしまったのかもしれません。

後（のち）にアラジンは魔人の力を借り、お城に住むお姫様と結婚することができます。でも魔法のランプはお姫様と共に、悪い魔法使いの手によって奪い去られてしまうのです。けれどアラジンのはめていた指輪にも別の魔人が宿っていて、困ったアラジンに力を貸してくれました。お陰で、アラジンはお姫様を無事連れ戻すことができたのです。こんな魔法のランプや指輪、ぜひ欲しいものですね。



9. <オズの魔法使い>

おやおや、1列に並び、楽しそうに踊りながら進んでゆく一行がいます。先頭を歩くのは犬のトト、次にドロシー、そして、かかし、ブリキの木こり、ライオンです。そう、これは「オズの魔法使い」のお話です。ドロシーと愛犬トトは、大きな竜巻に巻き込まれ、オズの国に飛ばされてしまいます。そこで脳みそのないかかし、心のないブリキ、勇気のないライオンと出会い、願いを叶えてもらえるというエメラルドの都まで、一緒に旅をすることになったのです。

途中、様々な困難に出会いますが、仲間を助けるために、脳みそのないかかしは知恵をしぼり、心のないブリキは優しく手を差し伸べ、弱虫のライオンは勇気を振り絞ります。そして願いを叶えてもらえるというエメラルドの都にたどり着いた頃、かかしが欲しかった脳みそ、ブリキが欲しかった心、ライオンが欲しかった勇気は、もうすでに手に入っていたのです。

ドロシーはというと、魔法の靴を手に入れ、トトと一緒に故郷のカンザスに無事帰ることができました。一緒に旅した仲間たちのこと、いつまでも忘れないでね。



10. <シンデレラ>

満月の光を浴びながら、お城に向けて馬車が進みます。馬車に乗っているのはシンデレラ。え？シンデレラの馬車は空なんか飛ばないって？まあ、でも空を飛んだほうが早いですから。急がないと12時の鐘とともに魔法が切れ、馬車はかぼちゃに、馬はねずみに、シンデレラはもとのボロボロの服に戻ってしまうのです。そこで鳥たちも応援に加わり、華やかな舞踏会が繰り広げられているお城へと、向かっているところなのです。

やがてお城に着いたシンデレラは、王子様のお誘いでダンスを踊り、鐘の音とともに慌ててお城の外へとかけ出します。途中階段に落としたガラスの靴。後日、王子様は、その靴がぴったり合う女性を家来たちに探させ、シンデレラを見つけ出すのでした。

貧しく、いつも義理の姉たちにいじめられてばかりのシンデレラが、最後にお姫様になることという、まさに「シンデレラストーリー」です。



11. <ヘンゼルとグレーテル>

わー、おいしそうなお菓子の家ですね。その家にかぶりついている子どもたちがいます。そう、「ヘンゼルとグレーテル」。よっぽどお腹がすいていたのでしょうか。両手でお菓子をつかむと口いっぱいにはうばっています。なぜなら、この二人の兄妹は、貧しく食べ物も与えられないまま、意地悪なママ母の手によって森の奥に捨てられてしまったのです。

そこで見つけたのがこのお菓子の家。飛びつかずにはられません。でも実はこの家、悪い魔女が作った罠だったのです。子どもたちがお菓子をたくさん食べて太った頃、かまどで焼いて食べてしまおうと、魔女はわくわくしながら待ちました。でもそれに気づいたヘンゼルとグレーテル。かまどの準備をしている魔女を火の中に突き飛ばすと、慌てて逃げ去り、お父さんの元へと帰ります。意地悪なママ母は、なぜかすでに亡くなっており、親子3人で仲良く暮らしましたとき。

お菓子の大好きな皆さん、お菓子の家を見かけても、どうぞご用心を。魔女に狙われないよう、食べ過ぎにもご注意くださいね。



12. (1.) <エンディング>

さあ、みなさん。かけ足で見てきた物語の数々、楽しんでいただけましたでしょうか？え？なんだかへんてこだったって？でもたまには、こんなおかしな朗読会があってもいいでしょうか？

大人の皆さんもいかがでしたか？子どもの頃、繰り返し読んだお話、意外と忘れていたりしませんでしたか？これで、この度の朗読会はおしまいです。

今晚寝る前に、今日見たお話を1つでもいいから思い出してみてください。そうしたらまたお会いできるかもしれません。この続きは、あなたの夢の中で。それでは、ごきげんよう。

～注意事項～

▲影絵は、水滴に弱いので濡らさないようご注意ください。

▲台紙のトレーシングペーパーが破けたり、傷ついたりしないようご注意ください。

▲もしも、紙がはがれかけたら、「スティック糊」で軽くとめてください。

（*液体糊は、シワになります）

人形も、軽くスティック糊で固定しているだけです。

裏面カラーフィルターは、セロテープで補整してください。

▲上演は、朗読者、影絵をめくる人、と2人で行うとスムーズです。

▲部屋はなるべく暗くし、後ろから光を当てるのが効果的です。

*この台本はたたき台です。まったく自由な使い方をしていただいて結構です。

例 ・文章を好きなように変更する

・一部の絵だけを使用する

・これはどんなお話だっけ？と対話形式で進める

・クイズ形式にする など

▲この影絵紙芝居は、皆さんでご利用いただいています。破損にはじゅうぶんお気をつけください。